

みことばの体験(ルカ 5:1-11)

信者はこの世に打ち勝って、そしてこの世を生かすために召されたものに間違いありません。しかし、現実なかなかそういう答えが見られないのも素直に認めないといけません。なぜかと言いますと、そのように召されたことは間違いありませんが、信者が自分の水準のままでは無理です。また、この世の水準にとどまっていたら、その答えになかなかたどり着くことができません。なので、神様のみことばを体験することで、その自分と世の水準を超越して超えることができるようになるし、そのときに召された祝福が成り立っていくようになります。なので今日の聖書を通して、どのようにすれば神様のみことばを体験することができるか。それで自分の水準、この世の水準を超越していくことができるのかということを確認していきましょう。

今日の聖書の箇所は、皆さんもよくご存じのように、ペテロが一晩中、漁をしましたが一匹も捕れませんでした。そこにイエス様が来られて、深いところに行って網を下ろしなさいとおっしゃいました。ペテロは漁師の経験として、今のこの時間帯は浅いところで魚を捕る時間帯であるし、また深いところに行くということが理解できないし、しかも一晩中プロが仕事をしたにも関わらず捕れなかったのに、正反対のところに網を下ろしなさいとおっしゃることはおかしいことに間違いありません。しかし、おことばに従って、イエス様がおっしゃるそのことばに従って、そのとおりにやります。その結果、大漁となり皆びっくりしました。これを通しておことばに従った結果、ペテロはみことばを体験することになったわけです。そのときにペテロのすべてが砕かれて、最終的には何もかも全部捨てて、イエス様に従ったと書いてあります。みことばを体験するということはどういうことなのでしょう。

1. イエスがキリストであることを体験すること。

まず第一に、今日の聖書から確認しているように、イエス様がキリストであることを体験すること、これがみことばを体験することなのです。

私たちはどのようにイエス様がキリストだということを体験するようになるのでしょうか。

1) 絶対変えられない過去から(傷)

いろいろあるでしょうけれども、まず自分の人生において絶対に変えられない過去から、その過去を通してイエス様がキリストであることを体験することができます。その過去において、神のみことばをしっかり握ることでみことばを体験し、イエス様がキリストだということを体験するようになり、自分の水準を超越して、この世を生かす尊い人生を歩いていけるようになります。過去からというのは、過去のさまざまなことを通して、それが心の傷になっていたでしょう。そこでイエス様がキリストだということを体験するようになります。

① 苦しみ、失敗、事故-心の傷、トラウマ、〇〇のせい

私たちの過去にはさまざまな苦しみがありました。形もいろいろあるし、人には言えない内容もたくさんあると思います。さまざまな苦しみ、悩みを通ってきました。なかには自分の弱さのゆえに、また何かのきっかけで失敗をしでかして、大きな過ちを犯したこともあるかもしれません。また、願ってもない事故にあう場合もあります。そういった内容等々が結局は消化できないまま、時間が過ぎたにも関わらず、心の傷としてトラウマとしてしっかり残っているわけです。だから、いつまで経っても何かのせい誰かのせいにせざるをえません。心の中では恨みつらみ、憎しみ、また何かの後悔、結局は否定的な自我が形成されて、その人の人生を動かすことになってしまいます。そのような過去において神のみことばをしっかり握って、イエスがキリストであることを体験しましょう。

② ヨハネ 19:30 「すべて、完了した」

そのみことばこそが、イエス様が十字架の上でそのような過去を抱えていた私たちのために、私たちのそ

のすべてを背負って代わりに死んでいきながら宣言されました。すべてを完了した。そのすべてを解決して、すべてを終わらせたと言われました。そのみことばを握って、私たちは今まで心の傷として抱えて、誰かのせい、何かのせいにしていたそこから自由になることができます。それは大変な否定的な暗いものだと思っていたのに、それがイエス様をキリストと体験するための材料でした。すべてを完了した。このみことばを体験しましょう。イエス様はキリストであるということを暗いつらい過去を通して体験しましょう。

③養育係、土台

となると、今まで心の傷、トラウマ、何かのせいにしていたその過去が養育係に変わるわけなのです。それこそがイエスはキリストと体験することです。今までは心の傷になるしかないもの、恨みつらみの材料になるしかないと思っていたそれが、今まで一度も見るができなかった、人生の自分の根本を見るように私をガイドして、キリストへと向かうようにしたものだのです。それが養育係という意味なのです。そしてそこにとどまらないで、心の傷、トラウマ、誰かのせいにするしかなかったつらい過去、暗い過去そのものが、今でもそれをもって騙されている人々を救済するための教育材料なのです。そのことをぜひ覚えて体験していきましょう。みことばを体験しましょう。みことばどおりに行ったときに、イエスがキリストであることを体験しました。

2) 諦めるしかない現実(不信仰)から

そして、私たちが生きる今、この現実というのは、諦めるしかない現実があるかもしれません。だから、つい不信仰になるのが当たり前と思われる、そういう現実があります。イスラエルの民が紅海の前に立った時に、その現実諦めるしかない現実でした。ダビデは死の谷の影を歩きました。そのときにそれは普通は諦めるしかない現実だったのです。レムナント7人は、必ず四面楚歌のような場面に遭遇しました。だから、一般的には諦めるしかないそういう現実とぶつかるようになったわけです。

①1匹も

今日の聖書を見ても、一晩中プロが自分のすべてを動員して、また生きていくために漁をしましたが、一匹も捕れませんでした。それが現実なのです。そして、その現実の中で正反対の深いところに網を下ろしなさいと言われました。

②条件、環境、状況

私たちは自分が抱えているいろいろな条件、他の人と比べたときにどうしても思うような条件、また今置かれている環境、さまざまな状況等々の中で諦めるしかない現実がたくさんあるわけです。そのような現実の中でみことばに従って、おことば通りに行った結果、その現実の不信仰がすべて砕かれる、イエスがキリストであることを体験することになりました。これがみことばを体験することなのです。どれほどつらい過去なのでしょう。それがみことばを体験するための材料なのです。今、現実がどれほどつらくて、しかも諦めるしかない、もう諦めたいと思うような現実なのでしょう。それこそがイエス様をキリストと体験するための絶好のチャンスなのです。

③ガラテヤ 2:20、創世記 39:2、詩篇 23:1

パウロは言います。私はキリストとともに十字架で死んだ。今は私が生きるのではなくて、私を愛してご自分のいのちを捨てられたイエス・キリストを信じる信仰によって生きるんだと。諦めるしかない、それは自分しかないときなのです。その自分を殺して、十字架とともにキリストがともにおられ、その勝利のキリストを信じる信仰によって生きるこのみことばを握るときに、このみことばを体験するようになります。創世記 39:2 を見ますと、奴隷の状態です。いま私たちは奴隷がどういうものなのかピンとこないかもしれません。当時、奴隷というものは、ものと同じ扱いなのです。そういう奴隷の身分になってしまったヨセフの場合、何が希望になるのでしょうか。一般的に考えると諦めるしかない状況ではないでしょうか。にもかかわらず、ヨセフにはそれが何一つ問題になりません。主がヨセフとともにおられて、ヨセフは幸運なものになっているとそう書いてあります。普段、私たちは自分のレベルで諦めるしかない現実の前で、そのまま屈服して跪くようになるでしょうけども、そこでみことばを握って主が信者とともに

られて、このみことばを握ったときに、イエスがキリストであることを体験するようになります。ダビデも死の影の谷を歩く、そのようなつらい現実を通していました。にもかかわらず、ダビデはみことばを握って、主は私の牧場の羊飼いであり、私には乏しいことはありません。主は私の牧場の羊飼いであり、イエスはキリスト、インマヌエルというみことばを握ったことで、私に乏しいことはありません。諦めるしかない現実、そこで神のみことばをしっかりと握ると、みことばを体験するようになるし、イエス様がキリストであることを体験するようになります。

3) 常識と経験の限界から

それから常識と経験の限界、そこがみことばを体験するための絶好のところであり、イエス様がキリストを体験するための絶好の材料になります。

①漁師の常識と経験

先ほども申し上げましたように、ペテロと他の漁師はプロなのです。漁師の今までの常識、その経験から見ると、深いところで網を下すということはありえないことなのです。つまり、彼らの常識、経験、それが限界を迎えるような場面なのです。

②律法、道徳、科学

私たちが世の中で生きるために必要なものはいくらでもあります。法律も必要なものです。道徳、倫理も必要なものです。科学も教育もその知識も必要なものです。しかしそれは絶対的なものではないので、必ず限界を見るようになります。その限界に閉じ込められてはみことばを体験することができません。その限界の中で神のみことばを握ることで、イエス様をキリストとして体験するようになります。

③ローマ 5:8、詩篇 103:20、ダニエル 3:25、使徒 12:7

ローマ 5:8には「しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます」。これが常識や経験、知識などで理解できるものなのでしょうか。罪人だったときに、罪のないキリストが代わりに十字架で死なれることで、このみことばを握ることで、常識と経験の限界を超えられるようになります。詩篇 103:20「主をほめたたえよ 主の御使いたちよ。みことばの声に聞き従いみことばを行う 力ある勇士たちよ」。世の中の科学者は、天使について全く無知なのです。時間空間を超越して神のみこころ、神の契約のために信者を助けて働く者がいるわけなのです。なので、私たちの常識、経験の限界をはるかに超える力がそこにあるということを感じましょう。ダニエル 3:25「すると王は言った。「だが、私には、火の中を縄を解かれて歩いている四人の者が見える。しかも彼らは何の害も受けていない。第四の者の姿は神々の子のようにだ」。3人が炎の中に入れられたのに、そこに4人がいた。それが時間空間に制限されない天使がそこに来て、炎の中で燃えないように守っていたということなのです。これが世の中の常識や経験、知識などで理解できるのでしょうか。その限界を超越していく神のみことばを握るときに、イエスがキリストであることをその限界の中で体験するようになります。もう一つ読みましょう。使徒 12:7「すると見よ。主の使いがそばに立ち、牢の中を光が照らした。御使いはペテロの脇腹を突いて彼を起こし、「急いで立ち上がりなさい」と言った。すると、鎖が彼の手から外れ落ちた」。刑務所に閉じ込められているのに、看守も見えないし、気づいていないところでペテロをそこから連れ出したのです。目に見えない御使いが、この常識と経験の限界を超えられることで、イエス様をキリストとして体験するようになります。これがみことばを体験することなのです。私たちが過去の何かに囚われているときに、それはすべて完了した。みことばを握って、現実のそのさまざまな限界などに囚われていたときに、今日申し上げました神のみことばをしっかりと握ることで、そこを打破して、そこを乗り越えて、イエスはキリストを体験するようになります。ペテロと漁師たちがおことばに従って網を下した結果、たくさんの魚を捕った、その魚の数の問題ではありません。イエスはキリストであるということ、みことばを握って体験するようになったということを感じましょう。そのときに自分の水準、世の水準を超えて、この世に打ち勝って、この世界を生かす神様の目的を果たして、それに用いられることができるようになります。

2. 人を生かす伝道者であることを体験すると。

そして、みことばを体験するということは、イエス様がペテロに「これからはあなたは人を捕るようになるだろう」とおっしゃったように、キリストであるイエス様を信じている信者、自分が人を生かす伝道者であることを体験すること、これがみことばを体験することなのです。

そのときに自分の世の水準を超えて、この世に負けることなく、この世を生かす伝道者としての答えの道を歩くようになるということです。

1) 絶対不可能な状況

私たちが考えるときには、伝道者としてのこの道というのは絶対不可能な状況に間違いありません。初代教会もそうでした。ペテロが呼ばれて、そのとおりにみことばが成就するにはあまりにも状況が不可能な状況だったということ覚えましょう。

①ユダヤ教(伝統)

まず、メインの宗教だったユダヤ教は伝統なのです。それによって不可能な状況に思われます。

②ローマの植民地(政治)

それにローマの植民地だった政治的な圧迫などで不可能な状況なのです。

③激しい迫害(宗教)

それから激しい迫害がありました。つまり、宗教的な不可能な状況というものもありました。私たちにも個人的に家庭の事情で、現場のさまざま状況、社会、国家、国のいろいろな事情などが私たちの目には不可能な状況に映るかもしれません。そこで伝道者であることを体験すること、これがみことばを体験することなのです。

2) 絶対不可能な条件

それから自分自身を見たときにも絶対不可能な条件なのです。ペテロは漁師出身、ガリラヤ出身、下っ端の下っ端だったのです。初代教会はみなそういう人ばかりでした。

①微々たる数

つまり、120人が集まったと言っても、ユダヤ教から見たときには微々たる数なのです。

②うわべの貧弱

③社会的弱者

不可能な条件、また集まっている人の構成、そのうわべ、社会的なさまざまな状況などを見ると貧弱であり、社会的弱者というふうに言うしかない人々が集まっていました。

④溺れがちな落とし穴-いつ?

だから彼らはずいつい溺れがちな落とし穴がいつも待ち構えているわけです。この私たちの今の物理的な状況をどうやって、いつ、どのようになるのでしょうかというのがいつもテーマなのです。ローマの植民地からいつ解放されるのでしょうか。そこにすべての神経が集中するような、そういう落とし穴がいつも待ち構えるような状況だったわけです。そういったことすべてを考えたときに不可能な条件ではないでしょうか。しかし、そういう不可能な状況、不可能な条件に間違いありませんが、そこでクリスチャンの私たちは問いかけないといけません。

3) もしイエス様がキリストなら

もしイエス様がキリストならば。本当に不可能な状況で不可能な条件に間違いありませんけれども、そこで留まることはありません。

①御座の力

にもかかわらず、もしイエス様がキリストならば、そこに御座の力が注がれるだろう。

②神の国のこと

それで神の国のことがなされるだろう。神の国のことは暗闇の力が砕かれて、聖霊の働きがなされて、絶対弟子が起こされて、30倍、60倍、100倍の実を結ぶ神の国の奥義がなされていく。それが神の国のことなのです。それがそのとおりになされるはずなのです。不可能な状況、不可能な条件であるにもかかわらず、もしイエス様がキリストに間違いなければ、それを体験することなのです。初代教会はそれを体験しました。イエスがキリストに間違いなければ御座の力が現れ、神の国のことがなされるはずなので、それを握って不可能な状況、不可能な条件の中で、それはあなたがたは知らなくてもいいよ。聖霊が臨まれると力を得て、地の果てにまで証人となるよ。そのみことばがそのとおりに契約になるでしょう。だから1:14にある祈りに専念するという祈りに入ることができるようになります。

③みことばの成就-ルカ 5:10、使徒 1:8

その結果、みことばが成就することを体験します。今日のルカ 5:10にも「あなたは人間を捕るようになるのです」とおっしゃって、それがそのとおりにになりました。それから使徒 1:8、不可能な状況、不可能な条件だった初代教会に、地の果てにまであなたがいるところからからスタートしてイエスの証人となると言われた、そのことばがそのとおりに成就して、みことばを体験するようになります。これがみことばを体験するということです。私は人を生かすために、サタンの国であるこの世界を生かすために召されているイエスの証人、伝道者なんだということをしっかり握って、しかし不可能な状況、不可能な条件、そこでイエスがキリストに間違いなければみことばを握るわけです。そうすると、そのみことばがそのとおりに成就するようになります。人間を捕る漁師になるよ。地の果てにまでイエスの証人となるというのがみことばにとどまらないで、その人、私にそのとおりに成就するようになります。みことばを体験するということは、自分が本当に人を生かす伝道者に間違いのないんだということを実際に体験すること、それがみごとを体験することなのです。このようにしてみことばを体験することで、自分の水準、世の水準を超越して、それでこの世に打ち勝って世を生かす伝道者の道を、その答えの道を歩んでいくことができるようになるということを確認して心に覚えましょう。

なので、結論を申し上げますと、イエス様をキリストとして告白して、ならばカルバリ山、オリーブ山、マルコのタラッパンのみことばが自分のものなのです。自分の契約として握りましょう。イエスがキリストに間違いなければ、カルバリ山、自分のすべての問題はもう終わりました。問題などありません。それからオリーブ山、神の御国、御座の祝福、それがテーマなのです。今まで気になっていたもの、それはあなたは知らなくてもいいよと。そのみことばをしっかり自分のものとして握って、マルコのタラッパンというのは、だから本当に祈りに専念すると、聖霊の力によってマルコのタラッパンで起きたことがそのまま起きて、私が伝道者であることを体験するようになるのです。そのことばを契約として握って、イエスがキリストに間違いなければ、それが私のものなのです。

それを信じて、そしてまずはそれが自分自身に刻印されるまで、それがやぐらが立つという意味です。祈りの中で繰り返し繰り返し味わうようにしましょう。繰り返し繰り返し味わうようにして、やぐらとしてしっかり刻印されるように。そうすると使徒の働き 2章の伝道の門が開かれる神の国のこと、それを期待して待ちつつ、すべての不信仰を捨てて祈るようにしましょう。そうすると、必ずみことばを体験するようになります。そうすると残りの生涯はそのみことば成就の道をずっと歩いていけるようになります。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。みじめな私たちではありますが、キリストの血潮によってきよめられて、イエスのいのちが宿る世の光として召されて、暗闇の世を生かす、そしてそこに囚われている人々を生かすために召されていることを覚えて感謝申し上げます。自分のレベルに留まって世の常識に捕らえられて、この祝福が阻まれることなく、キリスト・イエスのみことば、神のみことばを体験することで、それを超越してこの世に打ち勝ってこの世を生かす伝道者としての答えの人生を歩いていけるよう

にひとりひとりを祝福してください。イエスがキリストであることを人生をもって体験し、自分が伝道者であるであることを契約を握って祈ることで、そのみことばが成就することを体験することで、残り生涯、サタンが一番恐れる勝利の人生を歩めるようにひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。